

式辞

大宮光陵高等学校第34期生のみなさん。このたびは、ご卒業、まことにおめでとうございます。校長として、みなさんへのはなむけを申し上げます。

みなさんが本校で生活した3年の間に、世界が大きく変化したことは、すでにお気づきのことでしょう。地球規模の感染症拡大。戦争。自然災害。いずれも、私たちの生活や行動、考え方に大きな変化をもたらすものとなりました。

ついこの間まで、そんなことはありえない、と考えていたことが現実になっていきます。この変化は、決して一時的なものではありません。しかも、地球上のいたるところで起きていて、もはや誰にも止めることができなくなっているのです。

こうした中、本校を巣立っていくみなさんに私が伝えたいことは、「イッショケンメイ」に生きるということです。

「イッショウケンメイ」ではありません。「イッショケンメイ」に生きる。

「イッショウケンメイ」は、「一生、命がけ」と書きます。それに対し、「イッショケンメイ」は「一つ所に命がけ」と書きます。鎌倉時代、武士が、生活の頼みとなる自分の領地、一つの所を、命がけで守ることを意味しました。

その後、時代がくんだり、自分の人生すべてをかけてなにかをする、という意味で使われるようになって、現在のように「一生」と書くようになったのだそうです。

みなさんは本校で、それぞれが好きなこと、得意なことに全力を挙げて取り組んできたことと思います。卒業後も、多くの人が、自分はこれだという「一所」、一つの所に向かう道を選んでいることでしょう。

まずは、自分が立てた一つの目標に向けて、最善を尽くしてください。そここそ、自分が頼みとする領分だと受け止めて、努力してください。おやみに力を尽くすのではなく、自分の定めためあてに向けて、一步一步、進んでいってください。

その結果、目標が変わることもあるでしょう。思いもよらなかった場所が、新たな「一所」となることも、あるかもしれません。その時はまた、そこを「一所懸命」の領分と受け止め、日々邁進して行ってほしいと願います。

保護者の皆様。本日は、誠におめでとうございます。卒業が、お子様自身の努力の結果であることは言うまでもないことですが、支えるご家族の励ましがあってこそその結果です。校長として、心からの祝意と敬意を表したく存じます。

折しも、民法の改正により、令和4年4月1日より、成人年齢が18歳となります。本日卒業を迎えたみなさんは、成人として、名実共に、社会との責任あるかわりが求められることとなります。自覚をもって、一步を踏み出してください。

今はまだ、自分が何を目指すのか、はっきりしないという人もいるでしょう。そういう人も含め、自分の領分をしっかりと持つことが、これまで以上に大切な世の中になっていくと、私は考えます。

結びに、これまで本校に対しさまざまなお力添えをいただきましたことに、深く御礼を申し上げます。ありがとうございました。

では、卒業生諸君。よい人生を。

令和4年3月9日

埼玉県立大宮光陵高等学校長 佐々木 律